



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

新年明けましておめでとうございます。

今年には武師道教義書制作に全力を尽くそうと決意を固めています。
平成武師道には、キリスト教の聖書のようにこれを読めば、武師道がわかる、という聖典がありません。
そこで武師道 18 項目を基とし、人としての最低限の生き方をまとめていこうと考えています。
そもそもキリスト教の場合、聖書を 1 冊読めば、だいたい何を教義にし、どんな神様なのかはわかります。
しかし、私は人間的神格化された宗教も良いと思いますが、さらに大きな自然そのもの全て（森羅万象）の中に生きて、生かされているという自然崇拝の方がさらに心に入ってくるものと考えています。
今年のお正月にも敢行したのですが、三重と和歌山の県境にある熊野に 26 年間通っています。
そこは聖地と呼ばれ、平成 16 年には熊野古道が世界遺産になった所です。
熊野という場所には人工的な娯楽施設はありません。
しかし、それ以上に見ているだけで圧倒され、逆に心が落ち着く山、川、海、空などの大自然があるのです。
これら大自然を眺めていると、人間なんて本当に小さな存在にしか過ぎません。
普段、都会の喧騒の中で生きていると、人はそんな事まで気付かずに、地球の主になったつもりで、やりたい放題で生きています。
それではやはりいけないのです。
熊野には日本最古の神社、花の窟（いわや）という神社があります。
毎年初詣に行くのですが、その神様は巨大な 1 枚岩なのです。
人ではないのです。
それでもその岩を見ているだけで言葉は要りません。
人は自然の中で生きて、生かされている。
そして人は人の中で生きて、生かされている。
それを感じられるのは何か。
それが心なのです。
そしてそれを感じたら、自然に、人に感謝する行動に出てくるのです。
それが人間なのです。
我々、平成武師道は平成の時代に合った精神文化の構築を目指しています。
しかし、先ほど述べたように、自然の大きさにはいくら頑張っても追いつけません。
まずは自然の有り難みを知る。
自然崇拝の教え、それが日本の神道でもあったのです。
古く、日本は神道の国でした。
自然崇拝の考え、教えの精神文化であり、八百万の神様がいるわけです。
全ての物を祭り、感謝する心。
これが大切であり、平成の時代にもう一度学び直さなければいけないのです。
平成武師道は己を見つめ、人を見つめ、自然を見つめていく人間活動学です。
これを一冊の本にまとめていくのは至難の技ですが、着実に武師道同志で考えた武師道 18 項目をまとめていきます。
同志の皆さん、共に学び、鍛えていきましょう。
それでは本年も平成武師道、そして佐竹雅昭をよろしくお祈りします。



佐竹雅昭